**大阪府がん対策推進委員会平成27年度第1回小児がん部会（概要）**

# １．日　時：平成28年3月7日（水）午後3時～

# ２．場　所：大阪がん循環器病予防センター

# ３．議　事：

# （1）小児がん拠点病院の取組状況

# （2）第二期がん対策推進計画の取組み状況について

# （3）その他

４．委員からの意見要旨と審議結果

(1) 小児がん拠点病院の取組状況について【資料1～3】

　【意見要旨】

　（小児がん拠点病院の取組）

　　○命を助けるだけではなくて、教育から就労、社会復帰に至るところまで、トータルに取組みを頂いているのはありがたい話。範囲が広がれば広がるほど新たな課題は出てくる。引き続き、患者の声があればとりまとめてフィードバックさせて頂きたい。

　　　○大阪府がん診療連携協議会小児・AYA部会にて、年に数回、会議を開催して議論しているが、今後、大きな問題になってくるのは固形腫瘍、脳腫瘍と思う。

　　○AYA世代のがんについては、小児病院や小児科だけでなく、成人科でも診療されている場合が多い。大阪府がん診療連携協議会には、基本的には成人のがんを対象とするがん拠点病院が参加しているため、そういう場を活用して、成人のがんの診療されているドクターにもAYA世代について知って頂き、実際にどのような診療がされているのか、実態調査の部分も進めて行けたら良いと思う。

　　○厚労省でAYA世代の研究班が立ち上がり、AYA世代の診療ガイドラインができる予定となっている。それぞれの病院内でAYA世代というものはどういうものなのか問題を認識して頂き、それぞれの病院での取組を進めて頂ければと思う。

（大阪府におけるAYA世代の白血病・リンパ腫の実態調査）

【意見要旨】

○子育て世代独特の問題と高校生や大学生の人たちの問題も随分と終末期に抱える課題としては異なってくる。同じAYAでも２０代、３０代では異なるし病気の種類でも異なるところ。AYAの中でも具体的に問題を病気のことと社会的なニーズが違う。社会的サポートがどういったものがあるのかということが重要となってくる。

○AYA世代は、医療機関が積極的に取り組むだけでなく、地域を含めてより広い枠組みでAYA世代の対策を考えていく必要があり、ソーシャルワーカーの存在がますます重要になってくる。教育であったり就労の支援であったり様々な支援をより多面的にやっていく役割や、心理的な相談も含めた相談窓口の入口としての役割などの大きな役割が求められているのではないか。

（2） 第二期がん対策推進計画の取組み状況についての説明【資料4～7】

【意見要旨】

　　○高校生が対象の長期入院生徒学習支援事業について、京都でのシンポジウムで聞いた話では、京都府では今後の課題として段階であるが、大阪では進んでいるので、引き続きお願いしたい。

○平成28年の取組案として大阪府小児がん連携施設連絡会で、緩和医療部会と化学療法部会と立ち上げる予定。現在、小児がんの患者さんの約半数を府立母子保健総合医療センターと市立総合医療センターの2か所で診ている。この連絡会に参画している10施設から2施設を除く8施設で残り半数が診療されている実態。設備面やスタッフ数を全て揃えることは難しいが、可能な部分で緩和医療などの医療環境について、どこの病院で治療を受けて頂いても同じような環境が確保されるよう、府内での今後のレベルアップを均てん化に努めていきたい。

【審議結果】

○平成27年度の取組状況及び平成28年度からの取組みについて、承認を得た。

（3）その他

○ＴＳＵＲＵＭＩこどもホスピスについて【資料8】

　○その他

【意見要旨】

　○今年度の本部会は1回の開催であったが、2、3回開催する必要があるのではないか。

　　○患者側からのニーズ、テーマがあるのであれば、本部会の場だけではなく、意見を取りまとめて頂き、色々な機会で相談して頂いても構わない。